

令和5年度（2023年度）まちづくり協働推進事業二次審査会記録

- 1 日 時 令和5年（2023年）8月24日（木）
午後2時から午後5時まで
- 2 場 所 市民活動センター大会議室（ソラト太田川3階）
- 3 出席者 日本福祉大学国際福祉開発学部 特任教授 千頭 聡
名古屋コミュニティ研究所 代表 水野 真由美
NPO法人ボランティアネイバーズ 研究員 齋藤 雅治
総務部長 西山 聖治
市民福祉部長 辻 聡子
教育部長 小島 久和
- 4 事務局出席者
市民協働課 課長 仙敷 元
" 主幹兼統括主任 加藤 忍
" 主任 山田 浩策
- 5 事業担当課出席者
女性・子ども課 課長 永井 直子
" 統括主任 堤 仁勇
" 統括主任 山内 ふみえ
- 6 公開・非公開の別
公開
- 7 傍聴者数
1人
- 8 審査会
 - (1) 開会あいさつ
 - (2) 審査員紹介
 - (3) 二次審査
 - ア 審査方法
事務局より説明
 - イ 公開質疑

㊦ 女性の活躍支援講座等開催事業

- ・話してはなす「はなはな」より提案内容説明

(千頭委員長) オンラインでの開催は慣れているのか。

(団体) スタッフミーティングはオンラインで実施しており、慣れている。

(水野副委員長) 見積書について、事業所の数は150社と記載してあるが、どのように算出したのか。

(団体) 概算にて算出したものである。

(辻委員) 参加者には、仕事の一環として講座に参加してもらおうということか。

(団体) 現在検討中であるが、仕事の一環として来てもらった方が、講座で自分の意見を言いやすいと考えている。

(齋藤委員) 学生ボランティアについて、どのくらいの人数をどのような方法で募る想定をしているのか。

(団体) 当日スタッフとして身内の知人の学生に声を掛け、5～6人程度を募る想定をしている。

(齋藤委員) 自己肯定感を一番のテーマとした理由は何か。

(団体) 自己肯定感が上がるための講座を子育てのアドバイザーとして実施している。自己肯定感の大切さを伝えたい

(齋藤委員) 実際に自己肯定感が低い方が多いと感じるのか。

(団体) 低いということに気づいていない方が多いように感じられる。

(千頭委員長) 団体として、今回の事業に応募した理由は何か。

(団体) 日ごろから地域密着型で活動しており、今回の事業を実施することで、より多くの方に参加していただき、子育て世代が自信をもって生きられるような支援をしていきたいということと、より多くの方に我々の活動について知っていただく機会となるためである。

(千頭委員長) 日ごろの活動について、初めて来るといふ人も多いのか。

(団体) 初めての人が多い。

(千頭委員長) 今回の事業についても、初めて来られる方がいても問題はな

いか。

(団 体) 問題ない。

(西山委員) 企画書の実施1年目の講座「事業所の取り組み」の企業を選定したポイントは何か。

(団 体) SNSで、その企業の活動等を見て、内容に感銘を受けたことである。直接その企業と繋がりがあるわけではない。

(小島委員) 中期的な目標として、将来的に事業所の方に、どのように女性が抱える問題を伝えていく想定をしているのか。

(団 体) 当団体は、女性の本音を聞くことができる点が強みと考えており、問題解決にはパートナーの協力も必要となるため、パートナーを通じて、事業所にも届けられるのではないかと考えている。

(齋藤委員) 実施1年目、2年目で自己肯定感を高め、実施3年目で「ママジョブあいち」の見学ツアーを計画しているが、その先をどのように繋げていくのか想定はしているのか。

(団 体) 協働推進事業の趣旨を上手く理解できていなかったことがあり、3年目に「ママジョブあいち」見学ツアーに参加するという展開では、流れが悪くなってしまうため、3年目の事業内容については、再検討が必要と認識している。

(水野副委員長) 講座開催の第1回、第2回の参加人数は何人を想定しているか。ファシリテーターは団体の会員が務めるのか。

(団 体) 参加者は20人～30人程度を想定し、ファシリテーターについては会員が務め、4人程度を想定している。

(水野副委員長) 参加者が団体の想定よりも多く集まった場合には、どのように対応するのか。

(団 体) 事前に定員を設けることで、想定に参加者数以上にはならないようにしたい。

・特定非営利活動法人 SmileyDream より提案内容説明

(水野副委員長) 広報について、企業へのチラシとメールは併用する予定なのか。

- (団体) メールでの案内に移行していきたいと考えている。企業にNPOからのメールが届かないように設定されている場合もあるため、市からのメール送信をお願いしたい。今後、ペーパーレスにし、その分の郵送費等の経費を講座のオンライン開催等に回していきたいと考えている。
- (西山委員) 企画書の事業実施で得られる効果に事業終了後もお互いをサポートできる関係づくりができると記載してあるが、具体的にはどのような仕組みなのか。
- (団体) コロナ禍前までは事業に参加したことがある方を対象とした集まる場を設けていたが、コロナ禍後はSNSの団体の公式アカウントを利用して、参加者同士の情報共有をしている。
- (辻委員) 企業の情報交換会を実施しているということで、その情報交換会から、具体的にはどのようなフィードバックがあり、どのように事業に活かしているのか。
- (団体) 女性の活躍支援講座で得られた情報を育休中の子育ての講座に活かし、企業から頂いたデータ等の情報を企業から許可を得たうえで参加者に提供している。具体例を挙げると、ある企業から、データをエクセル形式で提供をさせていただいて、そのデータを見て、再度講座を受講したという方もいた。
- (小島委員) 講座の受講対象者はどのように考えているのか。
- (団体) 事業所の女性管理職に限定せず、人事担当者等も想定している。また、事業所の方を講師として迎える予定である。
- (齋藤委員) 事業計画の3か年において、各年度の事業のテーマ等をどのように想定しているか。
- (団体) 制度等が時勢によって変わる傾向にあるため、担当課と協議しながら時勢に合わせてテーマを決めていきたいと考えている。
- (千頭委員長) 講座をハイブリッド開催にすることの意図は何か。
- (団体) 講座は2時間のうち1時間をオンラインも併用すること等を想定している。オンライン講座は、多くの方に受講してもらえ

るが、それで終わってしまうというパターンも多く、対面による受講も重要だと考えている。

(齋藤委員) 中小企業において女性の活躍が滞っている部分等がみられると思うが、それをどのように捉え、どのように事業に活かしていくのか。

(団体) 東海市の特徴として、製造業が多く女性が少ないという点があり、これから女性の活躍支援の取り組みを始めるという企業が多いため、必要に応じてサポートしていきたい。労務のことを不得手としている企業もあり、企業が労務に関する知識を身に付けていただくとともに、労働者も事業所に労務で誤っている部分の確認を求めるようになるくらいまで浸透してほしいと考えている。

(イ) 男女共同参画啓発事業

- ・地域開発みちの会より提案内容説明

(千頭委員長) 参加者に議員等を想定しているか。

(団体) パートナーシップ宣誓制度について認識してほしいため、是非参加してほしいと思う。アーカイブ視聴もできるようにして多くの市職員にも視聴できるような形を想定している。

(小島委員) パートナーシップ宣誓制度について、子育て応援情報誌に記載する内容はどのようなものか。

(団体) 家庭における固定的役割について性の多様性という一面を入れることで、新たな視点で人間関係の基盤を築くということを伝える内容である。

(齋藤委員) 広域で活動されている団体の特色をふまえ、今回の提案事業からどのように取組を発展させていきたいのか。

(団体) 今回は東海市で実施し、名古屋市や、知多半島の4市5町の会員の活動を活性化させていきたい。

(水野副委員長) パートナーシップ宣誓制度の理解促進のために、様々な背景を持つ方に知ってほしいと思うが、メインターゲットについてはどのように考えているか。

(団 体) どういう立場の方でも知っていただくことが大切だと考えている。

(水野副委員長) 市職員に受講してほしいということであるが、特にどういう部署の職員に受講してほしいと考えているか。

(団 体) 企画部、市民福祉部、教育委員会等の職員に特に受講してほしいと考えている。

・パパママ学級東海～産前産後ケア～より提案内容説明

(千頭委員長) 男女共同参画という広いテーマの中で、産前産後の期間でのパートナーの関係に範囲を絞っているが、そこから子どもが成長していき、家庭の状況が変化していく中で、どのように繋げていくのか。

(団 体) 産前産後以降もパートナーと一緒に住むというのは続いていき、パートナー間のコミュニケーションを取ることは継続していくため、他の問題においても根本となるテーマであると認識している。

(水野副委員長) パートナー間のコミュニケーションワークとはどのようなものか。

(団 体) お互いに考えていることを包み隠さずに交換できる機会の提供を、冊子等を使用して行う。

(齋藤委員) 対象者の範囲がもう少し見えるとよいのではないか。例えば、結婚前のパートナーは対象に入らないのか。

(団 体) 団体のスタッフは、自分たちの子育ての経験からミクロな視点で問題提起しているが、行政との擦り合わせが不足していると感じている。

(齋藤委員) パートナー関係にも様々なライフステージがあると思うが、どのあたりのライフステージのパートナー関係を対象と見込んでいるか。

(団 体) どのライフステージであっても、基本的にパートナー間でコミュニケーションをしっかりと取ることが大切であると考えている。

(小島委員) 講演会は多数の方に受講していただき、その後、ワークショップに参加するのは10組のパートナーという認識で良いか。

(団体) 10組のパートナーが講演会、ワークショップにそれぞれ参加することを想定している。

(小島委員) 書き込み式の啓発冊子はベースとなるものがあるのか。

(団体) ベースとなるものがあり、それをアレンジして使用する。

(千頭委員長) 3年間の事業を通して、講座は同じ参加者に受講してほしいと考えているか。

(団体) できるだけ多くの、異なる参加者に受講してほしいと考えている。

・特定非営利活動法人 SmileyDream より提案内容説明

(千頭委員長) 前回の審査会では貴団体の提案が採択されているが、今回の提案は、対象者が変わり新たに積み重ねていくものか、前回採択された分の3年間の事業の積み重ねも反映されたものか、どちらか。

(団体) 男女共同参画の意識は浸透してきているため、3年前に戻るということではなく、変化していく中でどういう方を対象とすべきなのか等を協議しながら、これまでの積み重ねも活かしていきたいと考えている。

(小島委員) 3年目に「女性の体について」というテーマにしているが、女性に絞った理由はなにか。

(団体) 女性の方が出産等ライフバランスによって健康に大きく影響が出ることと、健診の受診率が低い傾向にあるためである。更年期障害等、男女共に関係する問題も取り扱うため、男性にも参加してほしいと考えている。

(齋藤委員) 市に期待する役割として行政が持っている情報やデータの提供とあるが、具体的にどのようなデータを、どのように活かすのか。

(団体) 各種審議会において、議事録に掲載されない会議中に挙げられた話題及び東海市がどのような情報を把握し、どのように解

積しているのかということの提供を期待している。

また、それらの情報を共有したうえで、テーマについて協議をしていきたいと考えている。

(千頭委員長) 前回の提案時にも市に期待する役割として行政が持つ情報の提供を挙げていたが、前回の事業実施時に不足していた情報があり、今回の提案ではこういう情報がほしい等の要望はあるのか。

(団体) 国から発出された情報に対する東海市の方針及び行政が持っているデータ等を必要に応じて課を跨いで確認し、提供を受けるといったことを期待している。

(辻委員) 事業を始めたときと比較して男女共同参画の意識が世間に浸透してきており、全体的な意識等の中で変わってきているように感じられる部分があれば、教えてほしい。

(団体) 男女という差をつけず、それぞれが個人として生きやすい社会を目指すという流れになってきており、カテゴリーが多様化してきているように感じる。

(水野副委員長) 事業を始めたときと比較して、意識等の中で変化しなかった点はあるか。

(団体) 男女共同参画に関する各種制度について、法律等で義務付けられているから実施しなければならないという意識を持った方が特定の世代で多いように感じる。

ウ 集計・審査員協議

(4) 審査結果・発表

ア 審査結果

(ア) 女性の活躍支援講座等開催事業

採択：特定非営利活動法人 SmileyDream

(イ) 男女共同参画啓発事業

採択：地域開発みちの会

イ 講評

(ア) 女性の活躍支援講座等開催事業

(話してはなす「はなはな」)

- ・日ごろの活動の中で、地域で実施していることをステップさせ、団体としての思いを広く伝えていくということは大切である。
- ・企画として、参加者に寄り添うという点が優れていた。
- ・企画の一部が詰め切れていないように見受けられた。

(特定非営利活動法人 SmileyDream)

- ・企業と連携ができている点が団体の強みである。
- ・団体としての実績があり遂行能力が高いため、これまでの実績にさらに積み重ねをしてほしい。

(イ) 男女共同参画啓発事業

(地域開発みちの会)

- ・パートナーシップ宣誓制度という東海市としても特に重要視しているテーマを切口にした点は非常によかった。

(パパママ学級東海～産前産後ケア～)

- ・男女共同参画という多岐に渡るテーマであるが産前産後というテーマに特化しており、将来の展開が今回の提案では見えづらかった。
- ・一部の企画については、事前の準備が不足していたように感じられた。

(特定非営利活動法人 SmileyDream)

- ・男女共同参画という多岐に渡るテーマを俯瞰的に捉えるという点はよいが、切口がぼやけてしまい、先進性・独創性という点で見劣りしてしまう。